



Happy Halloween!!

循環器B病棟 保育士 坂東 泰江

ハッピーハロウィン!!今まで、保育士が主催で行なっていた病院の全体行事は、「みんなのお話し」「夏祭り」「かくし芸大会」「クリスマスキャロル」の4つでしたが、一昨年から新しく近年日本でも盛り上がっている「ハロウィン」の行事も始めました。そして昨年も10月31日には病棟で勤務する保育士6名と病院スタッフ有志・病院ボランティアによる仮装行列を行いました。

お笑い芸人やディズニープリンセス・アニメのキャラクターなどに扮した行列が病棟を訪れると、「trick or treat!!」という子ども達の元気な声が聞こえました。お部屋では、保育士と一緒に作ったかぼちゃの帽子や、可愛い衣装を身に着けた子ども達がにこやかに待ち構えていました。賑やかな集団の登場に驚いて泣き出してしまおう子どももいましたが、「あ、妖怪ウォッチ!」「お姫様

だ!!」と子ども達は大好きなキャラクターを見つけて喜んでいました。また、子ども達だけでなく、保護者も自らカチューシャを付けて仮装したり、みんなで写真撮影やビデオ撮影を行ったりして楽しんでいました。

短時間の訪問でしたが、たくさんの笑顔と笑い声に包まれた秋の一日でした。





診療科紹介（脳神経外科）

脳神経外科部長 河村 淳史

兵庫県立こども病院の脳神経外科では？

小児の脳・脊髄疾患や外傷を治療する専門施設としては日本で最も長い歴史があり、その経験を元により新しい高度な医療に取り組んでいます。

スタッフ紹介

院長の長崎達也をはじめ、河村淳史、山元一樹、阿久津直行の脳神経外科専門医4名と専攻医1名で治療に当たっています。

対象となる疾患

- ・頭痛や嘔吐から発症するような脳腫瘍
- ・突然、症状が出現する脳血管障害
- ・泣いたりして息が速くなった時に一時的な発作を呈するもやもや病
- ・交通事故や転倒・転落による頭部外傷
- ・出生時や健診で指摘される二分脊椎
- ・頭囲の拡大を呈する水頭症や硬膜下水腫
- ・頭蓋骨の変形を呈する頭蓋骨縫合早期閉鎖症
- ・その他キアリ奇形、脊髄空洞症など

特色

日々進歩していく高度な医療に対応することは小児医療の専門家集団を数多く擁し、最新薬剤や医療機器を設置しているこども病院だからこそ可能と言えます。当施設では脳神経外科が主体となって脳・脊髄腫瘍に対しては血液・腫瘍内科、放射線治療科、臨床病理部と、二分脊椎は整形外科と泌尿器科と、先天性頭部奇形は育児内科と、頭蓋顔面奇形は形成外科と、頭部外傷は救急集中治療科と、など関連専門科と外来、病棟、患者支援部署との連携をもとにチームで医療に携わり、お子様とご家族を支援していきます。またセカンドオピニオンにも随時対応していますのでどうかお気軽にご相談ください。

11月から手術用の顕微鏡を更新しました。視野が明るくきれいになり、時代の流れに合わせてハイビジョン対応になりました。また画像誘導支援装置との連携が出来るようになり、手術の前に撮影した頭部CTやMRIという頭蓋内の地図の上に病気を目的地と設定して車のナビゲーションの様に手術が出来るようになりました。



新しい顕微鏡



画像誘導支援装置



シアトル小児病院との交流の輪、広がる

リウマチ科フェロー 水田 麻雄

2014年3月に当院と姉妹病院であるシアトル小児病院のリウマチ科へ研修に行かせていただいたことがきっかけとなり、9月に同院リウマチ科のAnne Stevens先生が来訪されました。私の参加で研修事業は6回を数える中で、シアトル小児病院の先生が個人的に来院されたのは初めてです。個人的にはスケジュールの管理や移動手段の手配・準備など意外とやる事が多く、思った以上に大変でしたが、周囲の先生のご協力もあり無事に終えることが出来ました。

当日は院内のご案内、リウマチ科外来での患児との交流（偶然にも帰国子女の患児でした）、「歯周病と関節炎の関連」という題での研究内容の講演などをして頂きました。夜はAnne先生の

旦那さんも交えての懇親会もあり、ご本人からは当日接したどのスタッフからも親切にして頂いたと感謝の言葉を頂戴致しました。研修を機に今回のような海外との繋がりを得ることができ、あらためて貴重な経験であったことを再認識すると共に、研修だけにとどまらず、シアトル小児病院の先生方と様々な分野で連携していければと思います。



Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母と子どもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健全な成長を目指します。

- **基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親と子どもが一体となった治療の推進
 6. 子どもへの愛とまことに清らな医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

新年あけましておめでとうでございます。

寒い日が続きますが、頭寒足熱・ウォームビズを心がけ体調を崩さぬようにしたいと思っています。

「げんきカエル」はこれからも病院の最新情報を発信してまいります。ご意見ご感想をお待ちしています。

編集委員長：橋本ひとみ

編集委員：田中英二部 中村深子

内海祐子 井手敦子

阪部真吾 赤松根子

山根倫也 北川加寿美

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立子ども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター

小児がん医療センター 小児心臓センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL 078-732-6961
FAX 078-732-2910 (総務課)
FAX 078-732-6980 (予約センター)
URL <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
E-mail: info_kch@hp.pref.hyogo.jp

げんき カエル



こども病院
ニュースレター



平成 27 年(2015) 1 月 1 日

「治す」こと「支える」ことを両輪にして



病院長 長嶋 達也



新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって平和で実り多い年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。年の初めに当たり、兵庫県立こども病院に期待を寄せ、見守り応援して下さるすべての皆様に感謝申し上げます。

さて、新病院の建築は予定通り進みつつあります。低層階はすでに建ち上がり、平成27年度中の竣工を予定しています。並行して新しい医療情報システムの整備を行い、最後に人工呼吸器が必要な小さな赤ちゃん達の引っ越しという大仕事待ち構えています。多くの期待を担って素晴らしいこども病院となるよう力を尽くしたいと存じます。

最も大切でそして最も困難な仕事は、新しい病院に魂を入れることです。すなわち、1970年の開設から築き上げてきた実績に基づき、時代の要請にこたえて新しい医療をいかに展開していくかが問われています。昨年は、小児がん医療センターと小児心臓センターを開設し、既設の小児救急医療センターと総合周産期医療センターと合わせて4つのセン

ターを専門的医療の中核に位置づけました。新病院に向けて、これらのセンターを結ぶ集中治療部門や総合診療部門の強化に取り組んでいます。新病院には屋上ヘリポートも設置され、より広域からの小児救急患者の搬送にも対応可能になります。それに伴い、小児の重症複合外傷や熱傷を受け入れる体制整備に向けた検討を進めています。

あたりまえのことですが、こども病院に入院する患児・ご両親は「治る」ことを期待されます。したがって、私たちの第1の使命は「治す」ことであり、「治せるものは必ず治す」ことに全力を傾けます。しかし、いかに進歩した医学をもってしてもすべての病気を「治す」ことができるわけではなく、むしろ、「治らない」病気のこども達を受け入れることが私たちの使命でさえあります。病氣や障害をもって育っていくこどもとその親を「支える」ことがますます大切になってまいりました。こども病院のかけがえのない価値は、第1に病気を「治す」ことにより生まれる「希望」であり、第2に病氣や障害とともに生きていくこどもと親を「支える」ことにより生まれる「安心」にあります。「治す」と「支える」ことをこども病院の両輪としてまいります。

こども病院は、多くの方々の温かい支援を得ることにより初めてその力を発揮いたします。本年も引き続きご支援くださるようお願いいたします。寒い日が続きますが、立春は2月4日、春はすぐそこまで来ています。寒さに負けず元気に過ごされますようお祈り申し上げます。